

様式 F - 7 - 2

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	3 2 6 0 4
研究 代表者	部局	社会情報学部		
	職	講師		
	氏名	宮崎 美智子		

1. 研究種目名 若手研究(B) 2. 課題番号 16K21341

3. 研究課題名 視線随伴パラダイムを用いたAgency調整システムの発達過程の解明

4. 補助事業期間 平成28年度～平成30年度

## 5. 研究実績の概要

自らが行為をしているという感覚（行為主体感：Sense of agency）は我々の自己意識の根幹である。行為主体感には、感覚運動情報から導かれるボトムアップの主体感と文脈・信念等から導かれるトップダウンの主体感とが存在する。近年の研究において、トップダウンの主体感とは、ボトムアップの主体感とは独立に働き、社会適応的な側面を持つこと、また発達上生後1年目の後半で獲得されることが指摘され始めてきたが（Miyazaki et al., 2014; Wang et al., 2012）、そのメカニズムは明らかにされていない。本計画では、我々がこれまで行為主体感の発達評価のために開発してきた視線随伴課題を用いて、トップダウンの行為主体感の発達過程と社会適応的上の意義について明らかにする。

平成29年度に始めた検討により、8か月の乳児が文脈に応じた柔軟な合目的操作を行っている可能性が出てきた。具体的には、社会的な相互作用（攻撃行動）が観察されるアニメーションを見せ、その文脈に応じて視線の操作（合目的視線）を柔軟に変化させるのかどうかを、8ヶ月児を対象に実施したところ、自分の視線の操作が悪役キャラクターを懲らしめられるような文脈では、懲らしめるような目の動きが観察された。

このことから、平成30年度は、引き続きこの傾向が頑健に観察されるかどうかについて統制条件の検討を進めた。具体的には、相互作用のアニメーションから生物的要素を取り去ることで、単純な物体どうしの衝突場面を見せ、乳児がアニメーションから物理的なインパクトだけではなく、いじめ・いじめられる文脈を読み取っていたのかを確認する統制条件である。その結果、乳児の注視には攻撃者に対する弱い選好が見られたが、統計上有意になる程度の選好は見られなかった。このことは、先の実験条件で乳児がいじめ・いじめられる文脈を読み取ったうえで攻撃者に対して視線を向けていたことを示唆する。

## 6. キーワード

視線随伴 Agency 乳幼児 視線計測

## 7. 研究発表

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名	Miyazaki, M., Mugitani, R., & Asai, T.
2. 発表標題	"Touching!!": An AR system for unveiling face topography in very young children
3. 学会等名	Proceedings of the 21th international conference on infant studies (国際学会)
4. 発表年	2018年

2 版

1. 発表者名 Miyazaki, M.
2. 発表標題 The development of body representation in young children
3. 学会等名 International Symposium: Body Schema and Body Image
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮崎美智子
2. 発表標題 2～3歳児における自己顔部位の空間的定位置 ～拡張現実を用いた新課題を用いて～（話題提供） “からだ” はだれのものか？－自己/他者身体表象の共通性と差異を探る
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 堀 忠雄、尾崎 久記、室橋 春光、苧阪 満里子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 380
3. 書名 生理心理学と精神生理学 第III巻 展開	

8. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

9. 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

10. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

11. 備考

-